

こころせい

第45号

平成27年 7 月

発行 高知厚生病院
広報委員会

◆ 高知厚生病院の理念・基本方針 ◆

理 念

私たちは、安全かつ質の高い医療を提供し、皆さまに信頼される病院を目指します。

基本方針

1. 患者さまとご家族、更に地域の皆さまの幸せのための医療を実践します。
2. 患者さまの権利を尊重し、真摯かつ温かい態度で接し、心と心が通い合う医療を実践します。
3. 自己研鑽に努め、更に発展向上を目指します。
4. 地域の医療機関や施設と連携し、効率的な医療を目指します。
5. 地球環境に留意し、災害への備えを怠りません。

過去・現在・未来 (その10)

祖父たちの思いを伝えたい — 終戦70年目の今年 —

院長 山口 龍彦

終戦から70年、戦争を体験している人も少なくなってきた。特に、戦地へ赴いて自ら戦ってきた経験を持つ人たちにお会いできることが大変珍しいことになってきつつある。今回は、私がホスピスの医師として出会った患者さんからお聞きした話を中心に、過去の日本人がしてきたことの証言を書き留めておくことにしたい。患者さんからお聞きしたお話は、私一人の胸にしまっておくには勿体無いし、亡くなる前に伝えておきたかったのは私個人ではなく、戦後の日本人に対してだと思うからである。なお、Mさんは一人の特定できる個人ではなく、私が出会うことのできた多くの方々の共通の思いを代弁する仮想の人物と思っていただきたい。

Mさん「何年か前までは、毎年夏には靖国へ行きよった。戦友にも会えるしね。戦争で死んだものにも残されたものが供養せんといかんろう。靖国で会おうゆうて散っていったがやきね。けんど戦友会も、集まれるもんがおらんってしもうて。自分も、体がこうなったら行けん。情けないけんど、仕方が無い。」

私「靖国神社は、首相もなかなか行かせてくれんし、天皇陛下もこの頃はいかれてないようですね。」

Mさん「アメリカも中国も日本が強かったがは、靖国があったからということを知っちゃうがじゃね。まっこと、わしらあは日本を守るために戦うたがぞね。家族を守り、地域を守り、日本を守るために…。若いもんに言うたち、侵略戦争じゃゆうて…（戦って）死んだもんが浮かばれん。」

私「学校がそうゆうて教えゆうがでしやう。教科書にはそう書いちゃうらしいですよ。」

Mさん「そうじゃろうね。情けない国になったもんよ。けんど、わしらあの思いをゆうてもうるさがるるばっかりじゃ。話も聞いてくれんきね。」

私「八紘一宇ゆうて、日本が支那や南方へ出て行ったがじゃないがですか？」

Mさん「日本が戦うたがは、蒋介石の支那と東南アジアを植民地にしちやうた欧米ぞね。そこの国の現



地人じゃないきに。その頃は朝鮮も台湾も日本やったけど、そこにおる人はみんな日本人として扱ったがぞね。元台湾総統の李登輝さんも京都大学出ちゅうろう。韓国のパク・チン女の大統領のお父さんは日本の陸軍士官学校を出た日本の軍人（満州国軍）やったがぞね。敵となった蒋介石も陸士や。そうやって平等に最高の教育を受けさせちゅう。教育だけじゃない。朝鮮にも台湾にも、莫大な投資をしてダムやら港やら造ってその国を豊かにしようと努力しちったことも知っちゅうろう？八紘一宇はあんたらあが思うちゅうほど悪い言葉じゃないぞね。」

私「欧米の植民地では現地人は奴隷や家畜の扱いに近かったと聞いています。」

Mさん「終戦になってからも、インドネシアの独立のためにインドネシア軍に協力して戦う人らもおるぞね。日本があの時戦わなかったら、今でも世界中植民地だらけよね。戦前は今と違って白人だけが人間で、肌に色が付いちゃったら猿と変わらんと思うちゅうたろう。それが今でも続いちゃうはずや。」

私「戦前にアメリカに渡った人たちもずいぶん人種差別に辛い思いをしたそうですね。」

Mさん「排日移民法ゆって聞いたことあるかね？日本からの移民をできんようにして、すでにアメリカに渡っちゅう人の権利も取り上げたがぞね。」

私「第1次大戦のパリ講和会議で日本は国際連盟に人種差別撤廃を提案したがでしたよね。」

Mさん「その頃はわしも生まれちゃあせんかったけど、アメリカも有色人種の日本が白人と対等にものを言うことが我慢できんかったがじゃろうね。有色人種を人間と思うちゃあせんきに、空襲したり原爆落したりできらあね。」

私「戦後もしばらくアメリカ国内で公然と黒人差別続いてましたからね。」

Mさん「それからABCD包囲網ゆって知っちゅうかね。」

私「アメリカ、イギリス、支那、ダッチはオランダですか。日本が経済封鎖されて、どこからも石油が買えなくなりました。」

Mさん「そんなことをされたら、日本は戦争するしか道がないことは向こうはわかっててやるわけよ。ハルノートを突きつけて。」

私「それで真珠湾に至るんですよね。アメリカに戦争に引き込まれたということですね。」

Mさん「日本が戦争に負けて一番いかんかったがは、東京裁判をやられて、アメリカの考え方を国民に押し付けられたことじゃないろうか。侵略したじゃ、大虐殺したじゃゆって。そんな事実はないぞね。日本軍は軍規が厳しかったきね。非戦闘員を大量虐殺なんかするもんか。絶対にしちゃあせん。それをしたのはアメリカじゃ。従軍慰安婦らあそんなもんはその頃聞いたこともなかった。そんなものありゃしません。それを、今の子供は先祖が殺人鬼やヒヒ爺みたいに言われて、誇りがもてんろうねえ。かわいそうなことよ。」

私「イラク戦争で捕まったフセインが裁判にかけられて死刑になりましたが、結局大量破壊兵器は出てきませんでしたよね。戦争するそもそもの理由がなかったわけですが、フセインは死刑でした。あれとよく似てるかもしれません。」

Mさん「歴史は勝ったもんが得手勝手に作るきね。敗戦国はいいなりよね。あんなマッカーサーが一週間で作文したもんを憲法にさされて。ほんで、いまだに日本には米軍がどっさり駐留しちゅうろう。全部日本が費用を出して。もう、何十年たったと思うちゅう。何年経っても敗戦国のままじゃ。」

私「一時は日本も頑張って敗戦から立ち直ったでしょう。ジャパン・アズ・ナンバーワンゆって。Mさんたち生き残った方々と団塊の世代の方々が頑張ってくださったんですね。」

Mさん「その頃、早う逝っちゃったと思うぞね。あれからめっそえいことはなかったね。今は、日本の周りは憲法違反の国ばかりよ。アメリカが出て行ったら日本はチベットみたいになるかも知れん。そんな心配をせないかんかった。」

私「憲法違反の国？」

Mさん「『平和を愛する諸国民』じゃないやいか。日本の憲法では、日本以外の国は『平和を愛する諸国民』であるということになっちゅうがじゃろ。」

私「まっこと。憲法違反の国には9条は適用せられんね。」

Mさん「今の日本に国を守る気概のある人はどればあおろう。いつまでもアメリカが日本を守るとは限らんかね…やっぱり早う逝ったがましか。日本が減びるところは見とうない。」

私「Mさん、いずれは靖国へ行きますか？靖国には坂本龍馬も祀られているようで、私も今度靖国へ行って日本の軍神の神々に日本を守ってくださるよう祈ってきたいと思っています。」

Mさん「ありがとう。支那の人は嘘でも百回言うて本当にするけど、日本人は負けたら文句を言わんきに。けど、誰かに言うちよかざったら死んでも死にきれんと思ひよった。死ぬ前に聞いてもらってよかった。ありがとう。政治家の人たちには『国を守れ』いうてください。日本は日本人が守るようにせんと。」

私「私にそんな力はありません。けれど、今の時代が危機の時代であることは解ります。平和を唱えていればいい時代ではなくなってますよね。機会があれば、Mさんの思いをお伝えさせていただきますね。私がお伝えできるのはごく限られた人たちですが。」

日本が戦ったから世界から植民地がなくなった。ペリリュー島でも硫黄島でも沖縄でも考えられないような激戦を戦い抜いた日本の兵隊さんのおかげで今の日本がある。ありがたいことだと思う。Mさんや日本のために戦って散った数多くの英霊に恥じない私たちでありたい。もうMさん（たち）はこの世の人ではない。聞いたものが語り継がねばならないと思い、このような形にさせていただいた。

緩和ケアレポート

豊かないのち講演会の報告

歯科衛生士 三宮 瑞希



5月17日に高新RKCホールにて『豊かないのち講演会』の中で行われた、高知緩和ケア協会研究発表会で発表させてもらう機会をいただきました。そこで『緩和ケア病棟における歯科衛生士の役割を考える～QOLの向上にむけて～』というテーマについて発表しました。

内容としては、症例を通して患者様の最後まで食事をしたいというご希望を支え、生きる希望を与えること、歯がないことで口元をいつも気にされていた患者様は早期に歯科往診を受診することで安心と「表情を取り戻せる」という希望を与えること、ご家族の「何かしてあげたい」という思いと一緒に支えることで信頼や心のケアにも繋がっていくことを改めて学び、歯科衛生士の役割は患者様の口腔ケアのみならず様々な役割があると学んだことを話しました。

一人一人口腔内の状態が違うように、口腔に対する希望にも違いがあります。口腔は生命維持の基本であり生きる力を与える場所です。今後も緩和ケア病棟のチームの一員としてたくさんの患者様と携わりながら、患者様・ご家族の口腔に対するご希望に耳を傾け歯科衛生士として支えていけるよう、日々の業務に取り組んでいきたいと思ひます。

ミニ夏祭り

緩和ケア病棟 看護師 傍士 美奈子



緩和ケア病棟で、7月2日にミニ夏祭りを行いました。

スペシャルかき氷、たこ焼き、綿アメをつくって、みんなで楽しみました。

来月はミニではなく、夏祭りを開催する予定です。

歓迎「もくせい会」「ルアナと楽しい仲間達」の皆さま

相談員 川田 優美



5月27日（水）14時～5Fのラウンジで『もくせい会』の皆さまが踊りを披露してくださいました。通所の利用者様だけではなく入院患者様も曲に合わせて手拍子をされたり、一緒に踊られたりと楽しんでいただけました。利用者様・患者様の気分転換だけではなく、リハビリの一

つにもなったと感じられます。もくせい会の皆様本当にありがとうございました。

6月24日（水）14時～5Fのラウンジで『ルアナと楽しい仲間達』の皆さまがフラダンスを披露してくださいました。この『ルアナと楽しい仲間達』に所属している当院の看護師が中心となり、当院の患者様のみならず、スタッフをも楽しませていただきました。常夏の島を感じさせる曲は、聴いているだけでも気持ちが落ち着きます。この時だけでも気分転換になりました。本当にありがとうございました。



『腰痛予防について』

理学療法士 安芸 真奈

日本人の8割が一生に一度は経験する腰痛。日常での注意点や予防のための簡単な体操を紹介します。

〈日常生活における注意点〉

1. 正しい姿勢を心がける

- 立ち姿勢：顎を軽く引いて膝と背中を伸ばします。
両足に均等に体重がかかるようにしましょう。
- 座り姿勢：椅子に深く腰掛け背中を楽に伸ばします。
お腹に軽く力を入れましょう。

2. 長時間同じ姿勢を続けない

- 立ちっぱなしや座りっぱなし、長時間の車の運転は腰への負担が大きいです。
時間を決めて姿勢を変えたり歩いたりしましょう。

〈腰痛予防のための運動〉

1. 腰の筋肉のストレッチ



左足をかかえおなかへ引き寄せる



かかえた左足を右側へ倒す(右足も同様に)



おへそをのぞきこむように顔を上げる

2. 腹筋を強くする運動



当院は
平成15年9月22日より
日本医療機能評価機構
認定病院となっております。



◆ 特定非営利法人
日本緩和医療学
会より認定研修
施設として認定
されました



◆ 厚生労働省より
医師の卒後臨
床研修施設の
認定を受けまし
た

編集後記

夏本番！ 熱中症に注意しながら、夏を満喫したいですね。
広報誌へのご意見、ご要望がございましたら、お気軽に
地域連携室まで、お声がけください。
お待ちしております。



高知厚生病院

〒781-8121 高知市葛島1丁目9-50 Tel.088-882-6205 Fax.088-883-1655
ホームページ <http://www.kochi-koseihp.jp>